

老年薬学認定薬剤師 症例報告書作成のための手引き

2017 年 3 月 1 日作成

2017 年 3 月 27 日改訂

2017 年 9 月 6 日改訂

2018 年 2 月 1 日改訂

2019 年 1 月 10 日改訂

2023 年 11 月 20 日改定

一般社団法人 日本老年薬学会

I. 報告書作成にあたって

日本老年薬学会では高齢者の薬物療法についての専門家として一定水準以上の実力を有し、医療現場において活躍しうる薬剤師を日本老年薬学会老年薬学認定薬剤師として認定しています。老年薬学認定薬剤師の認定申請を行うには、症例提出が必要です。症例提示のための「老年薬学認定薬剤師症例報告書」は病院・診療所・保険薬局・介護老人保健施設などに共通の書式であり、書式に沿って記入いただくことにより、症例の薬物療法にどのように関わり、改善されたかが把握できるようになっています。

本手引書は、「老年薬学認定薬剤師症例報告書」を円滑に作成・報告していくための留意点をわかりやすく解説したものです。申請を行う際はWEB申請システムで行っていただきます。なお、ご報告いただいた症例は、日本老年薬学会において個人の特定が不可能なデータに加工のうえ学会活動もしくは、統計資料として行政機関などへの報告として活用させていただきます場合もあります。

II. 報告書作成に関する注意事項

- ・ **症例は 65 歳以上の高齢者を対象とします。**
- ・ 医薬品名は一般名を使用し、製品名（商品名）や略語などの表記は用いないでください。ただし、製品に固有の特性を論じる必要がある場合は一般名の後の括弧の中に製品名（商品名）を記載してください。
- ・ 老年薬学認定薬剤師症例報告書の提出は日本老年薬学会の会員であることを必要とします。
- ・ 医師の指示通り対応し経過を記載した症例ではなく、業務を通じて高齢者の薬物療法の有効性または安全性に直接寄与した症例に限ります。
- ・ どのような評価を基に薬物療法に関わる問題があると判断したかを明確に記載し、介入方法とその結果（経過観察を含む）を示し、それらに対する考察を記入してください。
- ・ 単に「残薬が多く飲めていないから一包化を行った」「飲み込みが悪いから OD 錠に変更した」などの症例は報告の対象としません。
- ・ 老年薬学認定薬剤師症例報告書の提出は過去 5 年以内のものとしします。
- ・ 提出される症例は他学会等への報告の有無は問いません。
- ・ 老年薬学認定薬剤師症例報告書の提出は該当患者 1 名について、1 報告としします。
- ・ 複数薬剤師が勤務する施設において、該当患者へ複数の薬剤師が関与した場合は、老年薬学認定薬剤師症例報告書の作成は主たる薬剤師が行ってください。同一患者の報告を、複

数の薬剤師が報告することは認められません。

- ・ 老年薬学認定薬剤師症例報告書の報告症例に捏造や他者の症例、文献からの引用であることが判明した場合は、認定審査小委員会を通じて日本老年薬学会理事会で協議の上、報告者に対して相応の処分が行われます。
- ・ 老年薬学認定薬剤師症例報告書は、日本老年薬学会 認定審査小委員会において審査が行われます。記入項目に関して記入漏れが無いようお願いいたします。
- ・ 提出方法は **WEB** システムにより直接ご入力ください。
- ・ 症例が老年薬学認定薬剤師の申請に相応しいかは、症例の手引き IV.各項目の記入方法に沿って記載されているか、審査者に分かりやすく説明できる能力を有しているか、症例報告にて審査いたします。
- ・ 提出後の症例の返却は行いませんので、必ず控えを取るようになしてください。

Ⅲ. 患者プライバシー保護について

- ・ 症例報告において患者の疾患や治療内容に関する情報を記載する際に、患者のプライバシー保護に配慮し、患者が特定されないよう留意してください。
- ・ 患者個人の特定可能な氏名、イニシャルまたは「呼び名」、入院番号・患者番号等、患者の住所、生年月日、日付（臨床経過を示すために必要な際は、介入日を基準として X 年経過、Y 月経過、入院日から〇日目などに留めてください。）は記載しないでください。
- ・ 病院、診療所、薬局等の施設名ならびに所在地は記載しないでください。また、他の情報と診療科名を照合することにより患者が特定され得る場合、診療科名は記載しないでください。
- ・ 以上の配慮をもって個人が特定される可能性がある場合は、症例報告に対する同意を患者自身または代理人、小児では保護者から得るか、倫理委員会の承認を得てから記載してください。

Ⅳ.各項目の記入方法

①患者基本情報

1 年齢、性別、症例タイトル

- ・ 症例報告の重複を避けるために年齢、性別を記入してください。また、症例の簡単なタイトルを 30 文字以内につけてください。（例：〇〇〇〇に関する介入を行った症例など）内容がわかるタイトルを付けてください。

例：糖尿病合併の心房細動患者における薬物有害事象に対する外来での対応事例

H2 受容体拮抗薬による処方カスケードに介入して減薬に寄与した一例

※症例タイトルと症例内容が異なっている場合がありますので注意してください。

2 患者背景

- ・介入に至るまでの経緯を簡単に 150 文字以内でご記入ください。

3 現病歴（病名）

- ・入手できる範囲内で病名を記載してください。
- ・保険薬局等で入手が困難な場合は、服用薬から推察される主たる病名を記載してください。

4 介入時考慮した検査値

- ・日常生活自立度（ADL）、認知機能、気分、意欲、嚥下機能など具体的に記入してください。客観的なデータがない場合は、申請者による評価（認知機能低下が疑われるなど）を具体的に記入してください。あれば要介護度なども記載してください。

5 その他の介入時の検査所見

- ・血圧、血液検査など検査値を入手できる範囲内で記載してください。

6 薬の管理者

- ・薬の管理者を記入してください。（例：本人、介護者など）

7 生活状況

- ・介入時の生活状況を記載してください。（例：入院、介護老人施設、在宅など）
- ・在宅の場合には同居者の有無も記載してください。（例：独居、夫と二人暮らし、家族と同居など）

8 服薬できない剤形

- ・服薬できない剤形があれば記載してください。
- ・なければ「なし」と記入してください。

9 薬物有害事象

- ・薬物有害事象があれば事象名を記載してください。

10 薬の管理方法

- ・薬の管理方法を記載してください。（例：1包化を行い薬袋管理、お薬カレンダー使用など）
- ・介入により管理方法が変わった場合には、介入時と介入後のそれぞれの管理方法を記載してください。

11 介入時の処方状況

- ・介入開始時の使用薬剤について外用薬なども含めて記載してください。
- ・医薬品名は一般名を使用し、製品名（商品名）や略語などの表記は用いないでください。ただし、製品に固有の特性を論じる必要がある場合は一般名の後の括弧の中に製品名（商品名）を記載してください。
- ・用法も記入してください。

例：〇〇〇〇口腔内崩壊錠〇mg 2錠 1日2回 朝・夕食後

12 介入終了時の処方状況

- ・介入終了時の使用薬剤について外用薬なども含めて記載してください。
- ・医薬品名は一般名を使用し、製品名（商品名）や略語などの表記は用いないでください。ただし、製品に固有の特性を論じる必要がある場合は一般名の後の括弧の中に製品名（商品名）を記載してください。
- ・用法も記入してください。

例：〇〇〇〇口腔内崩壊錠〇mg 2錠 1日2回 朝・夕食後

13 服薬アドヒアランス（コンプライアンス）

- ・介入開始時と介入終了時の服薬アドヒアランス（コンプライアンス）を選択してください。その他を選択した場合は別途記入してください。

14 プロブレムリスト

- ・薬学的視点から介入が必要と考えられた問題点を記載してください。（例：＃１ポリファーマシーなど）
- ・100 文字以内で記載してください。

※プロブレムリストの＃１、＃２と介入結果の番号が異なっている場合がありますので、対比して記載をしてください。

15 服薬支援・管理・処方介入の具体的内容

- ・プロブレムリストに従って薬物療法の問題点に対して行った服薬支援・管理・処方に介入した内容がわかるように具体的に記載してください。
- ・300 文字以内で記載してください。

例：減薬の場合は、薬剤師がどのような提案を行い、医師が判断に至ったかを記載してください。

16 多職種などとの連携内容

- ・多職種および病院・保険薬局・介護老人施設などとの連携内容を具体的に記載してください。
- ・150 文字以内で記載してください。

17 介入結果および考察

- ・プロブレムリストに従って介入を行った結果どのような改善がみられたのか、みられなかった場合は、どこに問題がありアプローチをしたのか介入結果がわかるように記載し、総合的な症例に対する考察を記載してください。
- ・200 文字以上400 文字以内で記載してください。

※薬剤師としての介入結果とその考察が乏しい症例があります。高齢者薬物療法の有効性または安全性に直接寄与した内容を記載してください。

※介入結果に、「症状は悪化していない」と簡潔に記載している場合がありますが、介入結果は詳細な記載をしてください。